

第4回恵那市リニアまちづくり基盤整備計画推進委員会【会議要旨】

日時：令和5年7月3日(月)

午前10時30分～正午

場所：恵那市役所会議棟中会議室

1.開会

2.委嘱書交付

3.委員長あいさつ

4.議事

■恵那市リニアまちづくり基盤整備計画の進捗について

・基盤整備計画実施計画の市事業の進捗状況について

→事務局より別紙資料（P1～P37）により、恵那市リニア基盤整備計画の概要、実施計画表、広域アクセス、都市間連絡道路、市内アクセス、野尻野畑地区・旭ヶ丘地区の機能回復計画について説明。

4. その他

■リニア中央新幹線工事の進捗状況について

→事務局より別紙資料（P38～P39）により、リニア中央新幹線に掛かる工事状況等について説明。

5. 閉会

公開または非公開の別 公開

出席者（敬称略）

委員長：磯部友彦

副委員長：阿部伸一郎

委員：柘植恒雄、和仁誠、渡辺武彦、加藤博靖（代理）

アドバイザー：舟橋邦頭、加藤忠士

議事等（敬称略）

■基盤整備について

- ・質疑なし

■広域アクセスについて

柘植）都市間連絡道路について、市道奥戸観音寺線から西側のルートは決まっているか。

市）検討している。その区間は高低差が大きいことや住宅等が立ち並んでいることもあり、設計が非常に難しい。そのため、詳細な期間をこの場で明示することも難しい。

柘植）河鹿橋及びその南側に架かる予定の橋について、都市間連絡道路とどのように結びつくのか。その辺もしっかり検討すべきでは。

市）理想としては都市間連絡道路と新設される橋を結ぶ事だが、そのあたりも含めた進め方を検討しなければならないと認識している。

柘植）そもそも、どこを繋ごうとしているのか。恵那駅までか。

市）都市間連絡道路の構想として「中津川市街」「恵那市街」「リニア岐阜県駅」を結ぶ道路としている。それを鑑みれば、恵那駅まで繋ぐのが理想的だと考えている。

柘植）河鹿橋は、現状利用しながら補強することができるか。

市）工事に伴い片側 1 車線になる可能性はあるかもしれないが、通行しながら補強したい。

阿部）河鹿橋の補強に関連して、佐渡橋の耐荷重が何トンかについても伺いたい。本多金属のトラックが佐渡橋を避けて運行していることから推察すると、あの橋も 20 t 未満になるのだろうか。もしそうだとすれば、ここも 20t 以上の耐荷重となるよう補強すべきではないか。

市）佐渡橋の荷重についてはこの場でわかりかねるものの、通行状況から鑑みればこちらも 20t 以上必要かと思われる。

県）佐渡橋については県が管理しているため、一度確認する。

阿部）前期計画は、リニアの開業とは関係なく 2027 年の予定となるか。

市）静岡県の問題もあり、JR は 2027 年開業が厳しいという見解を示している。一方で、静岡県以外の地域については部分的に工事を進める予定との事であり、開業が遅れるにしても路線は敷設される。路線が敷設されれば道路も分断されるため、前期目標年次の 2027 年までを前期計画として変更しない。

阿部）承知した。

■市内アクセスについて

柘植）坂の上交差点の整備については承知した。それはいいが、現 IC 周辺の流れの悪さが気になる。IC を降りて北上する道が慢性的に混雑しており、これも解決して欲しい。

市）当該箇所は IC を降りて左折した先の右折レーンが短いことから、慢性的に渋滞が発生しやすくなっており課題視している。抜本的解決を図るならば坂の上交差点の整備となるが、現実的には厳しい。IC “周辺” の整備であるため、県とも協議しながら整備できる箇所から部分的に進めていきたいと思っている。スマート IC の完成に伴い現 IC の流れも変わることが予想されるため、それらも踏まえて今後検討していきたい。

阿部）スマート IC は前期目標という認識で正しいか。

市）前期目標である。

阿部) 用地買収もこれからであるか。

市) 現在はまだ着手できない。理由としては、国の認可が下りていないため。先ほどの説明でも少し触れたが、今年の夏に国において必要性の確認が行われる。そこから準備段階調査、地区会議と進み、事業認可となる。それから用地買収に入ることが可能となる。

阿部) スマート IC ができれば坂の上交差点の渋滞緩和につながるという捉え方で正しいか。

市) 坂の上交差点の渋滞緩和に関する施策の一環として、スマート IC 事業がある。

和仁) 羽根平学頭線の整備は進んでいるか。1 m 拡幅するだけでも交通緩和が期待できる。

市) 当該箇所は様々な課題のクリアが求められるため、効果的な方法を探りながら進める必要がある。そのような事情からも、もう少々時間を要する。

和仁) すぐにやれとは言わないが、なかなか進まない理由の説明があれば地域の理解も得られると思うので、その辺も考慮してほしい。

渡辺) 少し話は逸れるが、武並工業団地で働く方から、瑞浪恵那間に IC が無い事が不便だという声をよく耳にする。そのあたりについての考えを聞かせてほしい。

市) そちらについては市内部でもかつて検討したことがある。この区域は 19 号及び中央自動車道と並走しているという特性上、技術的・金銭的観点から考えて実現が困難。仮に実現できたとしても、一方向のみとなってしまう。

渡辺) リニアと武並町のまちづくりについての関係性についてはどのように考えているか。

市) リニア岐阜県駅と武並駅は 2 駅で結ばれるため、東京や名古屋などの都市と武並との時間的距離が縮まる。“都市との距離が近い”という魅力の高まりに付随した面的整備が重要になってくるものと考えます。

柘植) 恵那駅北側の開発は将来構想として位置づけられているが、もっと早める必要があるのでは。

市) 基盤整備計画は、このような場において皆さんへ見ていただきながら方向性を決めていくものと考えている。基盤整備を進める中で駅は核となる部分であり、ご指摘いただいた部分は当然ついて回る話なので、前倒しを視野に入れる必要性も考慮している。一方で、現段階では道路の線形も検討段階であるため、今後も慎重に協議を進めていきたい。

<閉会 12:00 頃>